

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ

明大 サークル 物語

BSSO そしてビッグバンドジャズ

私たちがビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ（以下BSSO）は1961年に明治大学軽音楽クラブ内のビッグバンドとして活動が始まりました。宇崎竜童氏や、大隅寿男氏をはじめとする多くのプロミュージシャンを輩出しています。その後、軽音楽クラブから独立し、現在は約60人の部員が在籍しています。1・2年生が中心のジュニアバンド、そしてメンバーをオーディションで選出するレギュラーバンド、この2つのバンドを1つのサークル内に擁しています。コンテスト出場や依頼演奏、海外プロミュージシャンを招いてのライブ活動や年度末のリサイタルが主な活動内容です。

私たちが演奏するのは主に「ジャズ」という音楽で、これは西洋音楽の理論や楽器とアフリカ系アメリカ人のリズム感覚や音楽形式が融合し生まれたものと考えられており、演奏中に即興演奏が含まれるのが大きな特徴です。クラシック音楽が、独奏や重奏、大編成のオーケストラで演奏されるように、ジャズも様々な形態で演奏されてきました。その中で私たちが得意とするのが、ビッグバンドジャズ。サクソフーン、トランペット、トロンボーン、そしてリズムセクションを合わせて

出演しない部員も全員で応援に参加



10号館Aスタジオでの合奏の様子



ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ

リパティタワーの裏、錦華公園を左にゆるやかな坂を登ると、そこに現れるのは悠然と佇む10号館。かつて法学部の学舎であったここは、今は部室センターとして多くのサークルの活動拠点となっています。威勢の良いエール練習、様々な楽器の音色に美しい歌声。たくさんの音が溢れるこの10号館で、私たちも日夜練習に励んでいます。

さて、皆様はビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ、そしてビッグバンドジャズという音楽をご存知でしょうか。今日はこの場をお借りして、私達の活動と共に、語り尽くせぬその魅力を少しでもお伝えできれば幸いです。

ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ

ホームページ <http://meijibssomanager.wixsite.com/bss0-hp>

国際日本学部3年 中村 進太郎 (バンドマスター)

18人程度で演奏します。かつて日本の歌番組では多くの曲のバックがビッグバンドジャズで演奏されていたため、そのサウンドに耳馴染みがある方はきっと多いはず。あらかじめ決められたアンサンブルや構成があるため、小編成での演奏に比べ自由度が低く思われますが、誰がどんな演奏をするかによって毎回違う驚きがあるのがこの編成で演奏する大きな魅力です。様々な音楽性を持った18人が1つの音楽の中で混ざり合う瞬間は、他の何にも変えがたい悦があります。BSSOが主にレパートリーとしているのがカウント・ペイシー・オーケストラ。その魅力については、後ほどお話しすることにします。

学生ビッグバンドが1年で一番熱くなる日、それが「山野ビッグバンドジャズコンテスト」です。全国から集まった35校が一堂に会し、考え抜いた15分間の演奏を披露します。BSSOはこの大会で、最優秀賞8回・優秀賞8回受賞という成績を残してきました。会場となる大宮ソニックシティはコンテストの2日間、異様な熱気に包まれます。独特の緊張感と雰囲気があり、それゆえ毎年たくさんの名演が生まれる大会でもあります。2016年度の大会では、私たちの魅力が伝わる曲やアレンジを考え抜いて、見事第4位を受賞しました。

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ

カウント・ベイシー・オーケストラ

1881年の明治法律学校（明治大学）の開校からおおよそ半世紀後、海の内側のアメリカ・ニューヨーク州で、ジャズピアニストであるカウント・ベイシー（以下ベイシー）がジャズバンドを結成しました。それがカウント・ベイシー・オーケストラ（以下CBO）です。デューク・エリントン・オーケストラと並び、偉大なビッグバンドです。後にピバップと呼ばれるスタイル成立の立役者ともなる幼き日のチャーリーパーカーが、当時クラブに入れない年齢であったため、ドアに耳を押し当て演奏を聞いていたと言っただけ。ジャズの歴史を語る上でも欠かせない存在であることがわかります。「April in Paris」や「Basie Straight Ahead」などはテレビ番組でもよく使われているため、名前は知らずともそのサウンドを耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

このバンドの特徴は馴染みやすいシンブルなアレンジ、ゴージャスなサウンド、そしてベイシーやギタリストのフレディ・グリーンをはじめとするオール・アメリカン・リズムセクションにあると考えられます。その全てがこのバンドの魅力であり、世界的な名声を得て以来、世界中の熱狂的なファンを、今もなお魅了して止みません。また、ビッグバン

現代のジャズシーンにいたなら——私たちの想像は止みません。

ここ数年、私たちは新しい楽曲やオリジナルアレンジに積極的に取り組んでまいりました。ジャズの異端児とも呼ばれるピアニストのロバート・グラスパーや、唯一無二の存在感を放つチック・コリアの楽曲群、ジョン・コルトレーンがかつて深く追求したモードなどを私たちのスタイルに落とし込み、再構築します。そして、前述のコンテストで演奏し、いずれも上位入賞を果たしてきました。私たちが今こうして様々な挑戦ができるのも、今日まで55年間、OB・OGの先輩方が築き上げてきた伝統があってこそ。これからも伝統を確かに引き継ぎ、さらに良いバンドに進化していけるように、BSSOの飽くなき挑戦は続きます。

終わりに

最後までお読みいただきありがとうございます。私たちの活動やビッグバンドに少しでも興味を持っていただけたら幸いです。バンドの歴史から現在の活動まで様々なことに触れましたが、言葉では語り尽くせない魅力がまだまだたくさんあります。ですから、ぜひ、一度私たちの演奏をライブで体感していただきたいです。

戦前のジャズ評論家、野川香文氏がこのよ

今年度はジュニアバンドも大活躍



「太田市大学ジャズフェスティバル」にて

夏は長野、冬は岩井で合宿を行います



部屋にはカウント・ベイシーのポスターを飾っています

ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ 第43回リサイタル



2017年3月5日(日)

開場 15:30 開演 16:00

場所 日本教育会館 一ツ橋ホール
(神保町駅より徒歩3分)
東京都千代田区一ツ橋2-6-2

入場無料ですので、ぜひお越しください!

うな言葉を残しました。「ジャズに名曲なし、名演奏あるのみ」。ぜひ、私たちの「名演奏」を目撃しにいらっしやいませんか。

創部55年を超えて

ベイシーがもし現代に生きていたらどんな音楽を創っていたのかを想像し、体現することも、私たちの使命だと考えています。かつて、CBOは基本的な演奏スタイルは変えずに様々なジャンルの曲を演奏し、アルバムとして世に送り出しました。ビートルズの曲を集めた、「Basie's Beatle Bag」や007シリーズの音楽を演奏した「Basie Meets Bond」などが有名です。なかでも日本やキリマンジャロ、アフリカのイメージを描き民族音楽のエッセンスを取り入れた「Mingus」は他の作品に比べかなり異質ではあるものの、ベイシー自身がこれを気に入り、自らラジオ局に売り込みに行ったというエピソードが残っています。もし創作意欲にあふれたベイシーが

ドの礎ともいえる存在であるため、学生ビッグバンドが練習で取り上げますが、レギュラーバンドになるとその多くが違うバンドの曲を演奏するようになりがちです。しかし、私たちは入部してから引退するまでこのCBOのビートやサウンドの魅力を探求し続けます。それがBSSOの大きな特徴であり強みです。世界的に活躍しているビッグバンドにも、よくCBOの曲は取り上げられており、今なお多くの音楽家の尽きぬインスピレーションの源となっています。